

データサイエンス学部(総合問題) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

〔I〕 本総合問題は統計解析における最も基本的な能力の一つである、グラフや表などといったデータから情報を読み取る力を確認する問題です。空き家問題という具体的な社会問題を対象に、定義を把握した上での数値の読み取り、値の予測、数値の背後にある事象の考察、2変数間の相関関係の理解など、グラフや表からの情報処理能力を問うています。特に、具体的な社会問題を分析する上では、専門用語を含めてデータの定義を適切に把握した上で、実データを統計学の基本的な数式に落とししていく能力が求められるため、この点も重視して問題作成を行っています。

- 〔II〕
- (1) データに関するグラフや表を適切に理解する能力や、アルゴリズムを理解し利用する能力を問うています。
 - (2) 分析結果を適切に読み取る能力や、データ分析の目的をもとにどのような結果を重視すべきか、総合的考察力を問うています。

□■ 受験生へのメッセージ

グラフや数表から適切な情報を読み取り文章として表現する力や、複雑な状況設定を理解したうえで適切に数式として表現し計算する力を求めています。グラフや数表から情報を読み取る力を身に付けるには、逆にどのようなグラフや数表に表現すれば情報を適切に伝えられるのか、日頃から工夫して考えておくことが必要です。また、公式などは単に暗記するのではなく、その本質的な意味をいろいろな角度から考えておくこともよいことです。データサイエンスでは、数学的な力だけではなく、社会の出来事や人々の考え方などについても幅広く興味を持ち、自ら調べる力も必要です。自分の考えを分かりやすく伝えることも、普段から心がけておくとうよいでしょう。